

# 第11回 日本語スピーチ大会 2015

場所：かながわ県民センター 301号室

開催日：2015年11月23日（月）

## スピーチ草稿集



氏名	テーマ	出身国・地域	所属
ウルケシ シャウキヤ	ウイグル文化について	中国 新疆ウイグル自治区	横浜国大
ゲン ヴォー	MOOCで自分で勉強ができる事	ベトナム	横浜国大
李 紅鶴（リ コウカク）	中国旧暦のお正月	中国	横浜市大
デアリン ニコラス	映像、そして日本との出会い	コロンビア	東京芸大
ド・クイン・ホア	単身留学の高校生物語	ベトナム	横浜市大
アレイン ダン	コンゴの紹介	コンゴ	横浜国大
巖 玉潔（ゲン ギョクケツ）	日本での出会いそして今の私	中国	横浜国大
シャフノーザ	私のお気に入りの日本	ウズベキスタン	東京学芸大

**NPO法人 留学生と語り合う会（RKK）**



## テーマ「ウイグル文化について」

アラファト ヌルタイ (ウルケシ シャウキヤ)

(中国新疆ウイグル自治区出身) 横浜国立大



今日は皆様に「ウイグル文化」という日本社会であまりなじみのない私達の文化について発表させていただきます。ウイグルといえば皆様の頭に何が浮かぶかあるいはそもそもウイグルという言葉すら聞いたことのない方がいらっしゃるかもしれません。ウイグルはウイグル語では  $\text{ئۇيغۇر}$  と書き、右から読みます。ウイグルの人々は音楽踊りが好きで、文字文化とか食文化も独特です。そこで皆様にウイグルの文化をどう紹介したら良いかさまたまなことを考えて、一番わかりやすい言葉を見つけました。それが「シルクロード」です。シルクロードといえばご存知の通り長安からローマを結ぶ貿易通路だけではなく、多様な人種・文化・宗教・自然環境などが

混在する地域でもあります。ウイグルはちょうどその東西を結ぶ中心にあり、そこに多様な文化が生まれました。NHKが1980年に『NHK特集 シルクロード』を放映したので、広大なタクラマカン砂漠を覚えていらっしゃる方もおられると思います。現在シルクロードは世界文化遺産に登録されています。ウイグルは、中国が建国してから「新疆ウイグル自治区」という中国の最西端の自治区になりました。その面積は約166万km<sup>2</sup>で、全国面積の1/6を占めています。新疆ウイグル自治区は多民族、多文化地域であり、隣接する国は8ヶ国あります。当然ながら自治区内にもウイグル、漢、カザフ、タジク、ウズベクなど多民族が多く住んでいます。現在新疆ウイグル自治区の総人口は2000万人で、うちウイグル人は900万人です。GDPは約18億円で、全国25位です。ウイグル南部には世界第2の流動性砂漠のタクラマカン砂漠があり、面積の1/4を占めています。タクラマカンとはウイグル語で「死・無限」という意味があります。宗教についてはシャAMAN教、仏教など信仰していた時期もありましたが、現在ではほとんどのウイグル人がイスラム教を信じています。現在でも一部の地域でシャAMAN教や仏教の習慣・遺跡などが残っています。シャAMAN教から伝承された結婚式のときに新婦を絨毯の上に乗せ、火の上を通過させる習慣や仏教石窟にひとつであるキジル石窟などがあり、シルクロード世界文化遺産の一部になっています。

ウイグル語はアルタイ語のテュルク語族に属します。日本語もアルタイ語に属するという学説がありますので語源は同じなのかもしれません。文字は改良したアラビア文字を使っていますが、最近ではラテン語がよく使われるようになりました。

食文化について主食としてよく食べる料理をいくつかピックアップして紹介していきたいと思います。最初は「ナン」を紹介します。ナンといえば皆様がインドのナンを思い出すのではないかと思います、「ナン」というのは中央アジアの諸国で食べられる主食のひとつです。日本でのパンと違っていいです。次はラグメンです。麺は主に手打ち麺が多く、その上に炒めた野菜をのせて食べます。続いてはポロです。わかりやすく言えばピラフと似たような料理です。ラムや牛肉、ニンジン、玉ねぎを油でいため、その上にお米を入れ、弱火で30ぐらいい炊き込むことが一般的な調理方法です。最後には、シシケバブです。日本ではドネルケバブが有名ですが、シシケバブもケバブの1種類です。主に、羊肉をクミンと一味で味付けして焼くのが一般的です。

最後にウイグルのダンスについて紹介します。新疆ウイグル自治区は中国では「歌と踊りの故郷」と呼ばれるほど、歌やダンスが日常のことです。中でも一番有名なのは伝統楽器のオーケストラによる「ウイグル・十二・ムカーム」です。これは2005年にはユネスコ無形文化遺産に登録されるほど素晴らしいもので、庶民の愛情、怒り、悲しみ、喜び

などが歌と踊りなど、多様な形式で表現され、シルクロードの郷愁を感じさせます。これ以外にも地域ごとの歌やダンスが存在しています。まだまだ紹介したいものがたくさんありますが、また機会があれば、ぜひまだ紹介していないウイグルの文化について発表させてください。

## テーマ「MOOC で自分で勉強ができる事」

ゲン ファム クアン ヴォー (ベトナム出身) 横浜国立大学



皆さん、こんにちは、ベトナムからまいりましたヴォーと申します。私はいい教育を受けるために、日本に留学しています。今回選んだテーマは教育に関する「MOOC で自分で勉強ができる事」というテーマです。

なぜこのテーマを選んだかという、ベトナムではお金がなくて有名な学校の学費をだせない学生がたくさんいて、いい教育を受けることができない人が多いためです。安くていい教育をさがしました。2年前MOOCを見つけた時には感動するほど嬉しかったです。私にとって、MOOCはすばらしい大学です。なぜかという、MOOCはインターネットを使って有名な大学の授業を無料で受けられるからです。

まず、MOOCについて詳しく説明したいと思います。MOOCは英語で「Massive Open Online Course」で、日本語では「大規模公開オンライン講座」と言います。インターネットがあれば、どこでも、いつでも、だれでも授業を受けることができます。授業の種類はいろいろあります。技術から経済まで、いろいろな専門があります。従って、興味がある授業を選んで楽しく勉強ができます。MOOCは無料ですが良質です。もともとMOOCはアメリカのMIT大学が始めました。今では世界中の有名な大学がたくさん参加して講義を行っています。例えば、アメリカやイギリスや日本の大学などがあります。日本の大学の中では、東京大学や京都大学や大阪大学などが実施しています。講義の内容で分からないことがあれば、フォーラムに質問を送ると、一緒に勉強している学生が意見を書いてくれたり、担当の先生やチューターなどから答えを頂いたりします。従って、たくさん相談ができて詳しく授業が分かるようになります。

次にMOOCの良い点についてお話ししたいと思います。MOOCは高画質のビデオや、ゲーム感覚のある実験などから楽しく勉強することができます。ビデオは何回も見ることができるので、普通の講義より便利です。特に、一年生や二年生の留学生にとって助かります。外国語がまだよく理解できないレベルの時には、何回もビデオを見てメモを取ることができます。実際の授業を受ける留学生はよくボイスレコーダーを持っていきますが、MOOCでは、良質なビデオをダウンロードすることによって、何回も見ることができます。そうすると、外国語の能力を磨きながら、授業の内容も詳しくメモすることができます。

MOOCでは有名な大学の単位を安く取れます。単位が必要な学生は一つの講義あたり、5500円くらいかかります。しかしながら、アメリカに留学する場合は、一つの講義は10万円くらいかかります。従って、MOOCはお金持ちではない学生が外国のよい講義を受けたいと思っている時に、非常に便利です。

では MOOC での学習に適した人はどのような人でしょうか。まず、大学生で同じ授業科目を取っているがもっと勉強したい、あるいはもっと詳しく説明を受けたいと思っている学生です。実は私は大学生のとき、数学とか物理をたくさん勉強しましたが、ベトナムの大学の学生は式に関する問題はよくできるが、問題の本質(例えば現象や原因など)を問われるとあまり答えられません。なぜなら、試験の前に、先輩が過去に受けた試験問題を何回もやってみて、分からない事があれば、教科書を見ながら問題を理解していきます。その後、実際の試験の時、類似問題が出れば、よくできますが、ちょっと違う問題がでると、困ってしまう事になります。このように考えると、MOOC の授業は私の国の授業より良いと思います。

もう一つ MOOC 学習に適した人は他の教師の教え方を見たいと思っている教師です。ベトナムで勉強した時と同じ内容や式でしたが、MIT の先生の説明は分かりやすいし、式の意味もよりわかりやすいようにしているし、実際の例もたくさん示して説明がなされていたので、楽しく、そして役に立つ講義だと思いました。

更に、就職を希望している人は履歴書にたくさんの単位をかければ、会社に高い能力を示すことができます。なぜなら、専門に関する授業を多くとっているということは、他の友達に比べてより広い知識を持っているということになるからです

最後に、自分の国のために、留学を終えた後、もしベトナムの大学の先生になる事があれば MOOC のような良い教育制度を作りたいと思っています。

以上です、ご清聴ありがとうございます。

## テーマ「中国旧暦のお正月の紹介」

李 紅鶴 (中国出身) 横浜市立大学



私達中国人にとりまして最も重要な祝日は、旧暦のお正月です。中国では春節と言います。来年は新暦の2月8日になります。お正月が近づくと「どこにいても家に帰りたい、家族と一緒にになりたい」という気持ちが強まります。中国は広いので、場所によって、お祝い方法は変わってきます。変わらないのは家族と団欒する気持ちです。私は、中国の山東省青島の出身ですので、自分の地元でお正月をお祝いする方法を自分の体験に基づいて紹介していきます。

### ストーリー

大昔、年(ねん)という怪獣がいました。年は、普段は海の底に住んでいますが、毎年最後の日になると、村にやってきて、家畜や人を食べるのです。大変怖くて、毎年この日になると村の人たちは山に行ってお隠れていました。

ところがある日、神様が来てこの怪獣が怖がる物は爆竹(ばくちく)、赤い色、日の光ですよと村の人たちに教えました。それで、大晦日の日になるとみんな赤い服をきて、どの家もちょうちんを掲げて、怪獣が村に入った瞬間に爆竹を鳴らしました。これによって、怪獣が怖がって逃げてしまい、もう二度と街に来なくなりました。これが中国のお正月のスタートです。それで、今でもお正月になると、赤い服を着て、爆竹を鳴らす習慣が残って

いるのです。

## 伝統

伝統については、大晦日からお正月までの時間軸で説明していきます。

### (1)春聯を貼る



大晦日のお昼からです。古いものを剥がして新しい春練を貼ります。新しい年を迎えるという意味もうあります。春聯は普通赤い紙に黒い墨で書きます。私の小さい頃はほとんど手書きでしたが、現在は印刷の物が多いです。

この写真は最も一般的な田舎のイメージです。読み方としては左から右へ、一番上の扁額（へんがく中国語では横批）は最後に読みます。



聯で福という字がよく使われます。字を逆さになって貼ります。なぜなら、「倒れる」と「到来到」は音読みで同じのため「福倒了」[福が到来]という意味を表しています。

### (2) 餃子を食べる

なんで餃子を食べるといって、水餃子の中身はいろいろな食材を包んでいるので、団欒を表しています。晩御飯を食べた後、家族皆で一緒になって作る習慣があります。中国に帰った時には、毎年母（はは）と一緒に餃子を作っていました。最初、日本に来た時、料理は何もできませんでしたが、でも、餃子だけは作れました。餃子を作り終わったら、家族みんなと一緒にお酒を飲みながら、盛大の番組（日本の赤白に似ています）を見ます。それで、日付が変わった時に水餃子を食べるのです。その意味は、新しい年になりみんな万事めでたく順調に運ぶということです。

### (3) 年越しをする

大晦日の夜は寝ずに、家族みんなでお酒を飲みながら年越しをします。小さい頃はいつも途中で寝てしまいますが、12時になるといつも母に起こされて、餃子を食べさせられました。そして、お年玉をもらってまた寝てしまいました。小さい頃、12時になると爆竹を鳴らすことが一般的でしたが、近年は皆環境問題を意識するようになり、また、政府の規制もあって、爆竹を鳴らす人が少なくなっています。

### (4) 拜年をする

お正月の朝になったら、親戚やお隣さんやお友達のところに行って挨拶をします。お友達は皆、実家に帰ってい

るので、勉強や仕事の話で盛り上がります。

これが、私が体験してきた中国の旧暦でのお正月です。

## テーマ「映像、そして日本との出会い」

グアリン・ニコラス（コロンビア出身） 東京藝術大学



皆さん、こんにちは。

初めまして、コロンビアから参りましたグアリン・ニコラスと申します。2012年に来日して、現在東京藝術大学映像研究科の博士課程一年生です。今回、映像、そして日本との出会いについてお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

子どもの時に誕生日のプレゼントとして父に望遠鏡をねだりました。しかし、「この街で星なんて見えない」と言って、父は望

遠鏡の代わりにテレビを買ってきました。

父がいいことをしたかどうかは今でも良く分かりませんが、そのおかしなプレゼントのおかげで、映像、そして日本にも出会えたと思います。

それから毎日のように家で宿題をやってから、兄と一緒にそのテレビを観ました。そして、映像を見ることの楽しさを味わいましたが、実は、その頃一番よく観たのがNHKの教育番組とドキュメンタリーでした。

多分あまり知られていませんが、80年代に、南米の国々でも日本のテレビ番組が放送されました。それで、私と同じ年代にコロンビアに生まれた子どもたちは、ノッポさんとゴン太くんの『できるかな』や京都の祇園祭りの映像を観ながら、育ってきました。そう考えると映像や日本との出会いは同時にやって来たのです。

さらに、番組のスタジオセットや、ロケの風景、タイトルなどを観ていて、ところどころに漢字やひらがなが書いてあることが本当に気になっていました。「何が書いてあるのか？」という疑問が、日本語との出会いになりました。しかし、テレビの画面を通して見た京都の道を歩きたくても、コロンビアからは遠いので、日本へ来るまでおよそ20年もかかりました。

コロンビアでは普通の子どものように、学校で国語、地理、歴史を勉強したり、数学のテストを受験したりしました。しかし、記憶にある限りでは、映像を見ることだけでなく、ものを作ることに興味を持っていたので、中学高校時代には友達と粘土を使ったアニメーションやドキュメンタリーを作りました。映像を作ることが楽しかったので、大学では映画を専攻しました。

入学当初の目的はアニメーターになるためだったのですが、授業で映画の世界と出会い、それからはアニメーション以外の分野、特にドキュメンタリー制作に没頭しました。その結果、卒業制作としてドキュメンタリーを作ることにな

りました。このドキュメンタリー長編映画は住宅ローン危機問題を取り上げています。それぞれ異なる社会的環境にある三つの家族の生活を描きながら、彼らが家を買うことで手に入れようとする幸せの意味を考える作品です。

卒業後に就職したコロンビアのテレビ番組制作会社には、最初インターンシップとして入社しました。のちに正社員となり4年間働きましたが、科学技術のシリーズや歴史ドキュメンタリーの制作チームで脚本の仕事を担当しました。

この会社でテレビの仕事をしながら、それとは別に外部の映像作家チームにも加入し、スタイルやテーマの異なる作品を全員の協力で制作しました。

その内の一つが、『DOMINGO』という短編映画です。中流家庭の美しい夫人が、ある時、自らの奇麗好きがすぎて、知らない間に自分が飲む水を汚染していたことに気がつきます。しかし、その時すでに手遅れの段階まで汚染は進んでいたという内容です。

また、私はある短編映画のプロジェクトにも参加しましたが、そこで使いたかったアニメーションの技術を良く理解できませんでした。このまま会社の仕事と並行して制作を続けるのは難しかったので、一度仕事を休職し、その技術を勉強して映画に活かすため、日本へ留学することにしました。

2012年4月にコロンビアから京都にたどり着いて、朝6時に寺の鐘が鳴るのを聞いた時、初めて自分は違う国に来たのだなと感じました。当時、私にとって日本はまったくの異国だったので、駅・バス・公園・ATM など、日本人にとってはごく普通な場所の音にも感動させられました。しかし日本で過ごす時間が経つほどその環境にも慣れていくので、「初心」の感動を故郷に持って帰る目的で「音の風景」を記録し始めました。

同時に、京都精華大学に映像専攻の院生として入学してみると、いままで全然知らなかった分野に出会いました。新しい映像制作手法を探究する中で、初めてのインスタレーション制作とギャラリーでの展示作業を経験することが出来ました。その結果、去年は京都の音をテーマにしたものを初めて展示し、今年の3月には『ハーフ』という言葉の意味についてのビデオインスタレーションを大学院の修了作品として発表しました。

その後、修士課程を修了しましたが、日本でもともとやりたかった作品がまだ完成していませんでした。そこで、東京藝術大学の博士課程プログラムに入学しました。

現在は、アニメーションのクラスを受講し、制作技術を習得しています。その中で特に、アニメーションがどのようにドキュメンタリーと記憶の表現のために使用されているかを研究しています。

私の作品のほとんどは、テーマにヒューマンストーリーを取り上げていますが、歴史や芸術・哲学などにも関係しています。自分が興味を持って作った作品を他人と共有し、その人たちにも同じ関心を引き起こしてもらいたいのです。そして、その映像を30年後、40年後の人々が初めて観る時にも、優れた作品として生き続けられたら良いと思います。

映像、そして日本と初めて出会ったのは20年前の話になりますが、実は今でも、その出合いを昨日のように感じています。あの時望遠鏡をもらっていたら私は科学者になっていたかもしれませんが、父がテレビを買ってくれて本当に良かったと毎日のように心から思います。

## テーマ「単身留学の高校生物語」

ド・クイン・ホア（ベトナム出身） 横浜市立大学



私は2013年4月にベトナムから福岡県にある西日本短期大学付属高等学校へ編入しました。これから私の人生が変わりました。

まず、日本に来てから、大きな問題は言葉でした。日本人が話す言葉のスピードについていくことができず、言いたいことがあっても、うまく表現できないもどかしさに悩みました。授業でも先生が説明された内容が全く理解できず、何度も聞き返しました。ノートに書いた内容を辞書で調べる作業は毎日、深夜までかかりました。

また、私が通っていた学校は福岡県にあるので、クラスメイトは皆標準語ではなく、方言で会話していたので、なおさら理解できませんでした。

例えば、私は先生を探した時に「先生は職員室にいる？」と友達に聞いたら、「おらん」って言われました。「おらんは何？」って聞き返したら「いない」って教えられました。

「面倒くさい」は「せからしか」というし、また標準語とは別の意味で使われている言葉もあります。「布団をなおす」は「布団をしまう」の意味です。

全然わからない言語が流れている環境の中にいる私はこれからどうしたらいいか、どうしたら皆と話せるようになるのかも分かりませんでした。話しかけてもらってもその会話を長く続けることはできないのです。

毎日、学校に行って、一人でじっと座っていたり、お昼にも一人でお弁当を食べたりしました。そして、ホームルームのときに、先生からの連絡事項を理解できなくても、確認できる友達が一人もいなかったです。

また、5月の月末に文化祭がありました。これは皆と仲良くなるチャンスだと思いました。しかし、何もさせてもらえなくて、状況は変わりませんでした。私は日本に来てから、しばらくの間一人ぼちで、学校生活を過ごしました。

6月のある日の放課後、教室でテストの勉強をしていた時です。「ねえ、何かベトナム語を教えて」と背の高い女の子が笑顔で、話しかけてきました。

私は「カム・オン」という言葉を彼女に教えました。

ベトナム語で「ありがとう」という意味です。勇気を出して話しかけてくれた彼女に感謝の気持ちを伝えたかったのです。この日からクラスメイトとの距離が急速に縮まり、私自身が孤独感から解放されていくのを感じました。

私はここから本当の高校生活を送り始めました。皆と毎日学校へ行ったり、いつも一人で過ごしたお昼にも皆と弁当を食べながら、いろんなことを話しました。最初、全然話せなかった私は、どんどん日本語が話せるようになり、さらに方言も覚えてクラスの皆と仲良くなっていきました。私は友達から日本語や日本の文化、習慣を教えてもらいました。

しかし、文化、習慣あるいは価値観の違いで、摩擦が生じることもたくさんありました。例えば、私はトイレに行くと、友達を待たせた後に、「行こう」しか言ませんが、日本人はその時に「ごめんね、ちょっと待ってもらっていい？ トイレ行ってくるね」、そして戻った時に「ごめんね、お待たせ」といいます。友達から「あんたってごめんとかありがとうを言えない人よね」って言われて、ショックを受けました。

私は思うことをすぐ相手にストレートに伝えるので、他人を無意識に傷付けることがあります。日本人は思いやりではっきり自分の思いを私に伝えないので誤解が起こってしまうのです。

そういう時に、やっぱりじっくり話し合っ、私のどこがいけないかを指摘してもらって、解決するしか方法がないとわかってきました。

私は皆とけんかすることが必ずしも悪いことではないと思います。なぜならば、その場でお互いの意見を述べ、お互いに理解し合うことで、より信頼が高まるからです。私はクラスメイトと切磋琢磨する中で、友情がめげばえ、信頼という大切なものを得ることができました。

私は1年半ベトナムの高校に通って、2年間は日本の高校で学校生活を送ることができました。それで、両国の高校の違いを実感することができます。何が違うかという、日本は皆勉強しながら部活に所属しているので、より有意義な高校生活を送っていることだと思います。ベトナムでは、あまり部活の活動が活発でない、学校のイメージは勉強する場所しか頭に浮かばないのです。

私の日本の高校のクラスメイトは半分ぐらい野球部でした。毎日皆の頑張る姿を見て、本当に素晴らしいと思いました。勉強と部活を両立させ、努力していた皆をいつも球場まで応援しにいきました。3年生の夏大会にも毎試合、私は声を嗄して夢中で皆を応援し、これこそ本当の日本人の高校生らしさと実感していました。

二年間でたくさんの思い出を皆と作ってきて、卒業式に私は涙が流しながら答辞を読みました。私の楽しかった2年間はこれで終わりになるのかと考えたら、涙が止まらなくなったのです。私は本当に素晴らしい学校生活を送ったと思いました。

この2年間で、私は精神的な自立を遂げることができたと思います。文化の異なる外国で、そばに頼る家族もいなかったことが、私自身を強くしたと思います。大学進学に向けて努力を続ける中で自分自身の成長を実感できました。

## テーマ：「コンゴの紹介」 アレンダン・デコロロ・マフング（コンゴ民主共和国出身）横浜国立大学



みなさんこんにちは。

きょうは私の国のコンゴ民主共和国のお話をします。みなさんは、アフリカに「コンゴ」という国が2つあるのを知ってますか？

1つはコンゴ民主共和国、もう1つはコンゴ共和国です。この地図の黄色いほうがコンゴ民主共和国です。そしてピンク色のほうがコンゴ共和国です。

コンゴ民主共和国の首都はキンシャサで、コンゴ共和国の首都はブラザビルです。この二つの首都は世界で一番近い首都で、船で川を渡って15分くらいの距離です。コンゴ民主共和国は1960年にベルギーから

独立しました。コンゴ共和国はフランスから独立しました。この右側の写真の立っている人はベルギーの王様です。両方とも公用語はフランス語です。それでは、コンゴ民主共和国の紹介をしましょう。

まず、コンゴの概要です。

コンゴの面積は約234万平方キロで、世界で11番目に大きな国です。そしてアフリカでは2番目に広い国です。

じんこう やく まんにん せかい ばんめ おお くに しゅと つうか  
人口は約7550万人です。世界で19番目に多い国です。首都はキンシャサです。通貨はコンゴフランで、だいた  
い100円が1000コンゴフランになります。

つぎはコンゴの言葉です。  
公用語はフランス語ですが、国語には4つの言葉があります。それはリンガラ語、キコンゴ語、スワヒリ語、チルバ語  
です。コンゴにはだいたい100の民族が住んでいて、方言が242もあります。

では、コンゴの文化についておはなしします。コンゴの人々は70%が地方に住んでいて、都会にいる人は30%で  
す。都会の人は音楽やファッションで西洋の文化の影響を受けています。特にキンシャサの人たちはヨーロッパのフ  
ァッションに興味があります。

つぎにコンゴの食事を紹介しましょう。コンゴの代表的な食べ物は左側の写真の「フフ」です。「フフ」はタピ  
オカのパウダーをお湯で混ぜて作ります。そうするとこのような白いものになります。「フフ」と野菜や魚を入れたシ  
チューを食べます。バナナも食べます。バナナは油でいためて食べます。コンゴにはいろいろなイモがあります。大  
学イモもあります。

コンゴの宗教のはなしをします。コンゴでは80%以上の人がキリスト教を信仰しています。他の人たちは民族  
宗教を信仰しています。

コンゴにはいろいろな動物がいます。絶滅危惧種、むずかしい言葉ですね。絶滅危惧種のボノボというサルがいま  
す。それからゴリラもいます。そしてオカピーもいます。みなさんが上野動物園で見るオカピーはコンゴから来たオ  
カピーです。

さいごにコンゴと日本の外交関係について話します。これは日本政府の援助で作られた橋です。  
橋の両側にはコンゴと日本の国旗が描かれています。

すこしだけでしたが以上が私の国の紹介です。これでわたしのプレゼンテーションを終わります。ありがとうございました。  
ました。

## テーマ「日本での出会い、そして今の私」

巖 玉潔（中国出身）横浜国立大学



みなさん、こんにちは、巖玉潔と申します。中国の長安の出身で、今は横浜国立大学の理工学部の三年生です。私は四年前に日本に来ました。その間に会った人々の話をスピーチさせていただきます。

私は2011年の五月に日本に来ました。元々の予定は四月ですけど、東日本大震災のことで、五月まで延びました。その時、中国のニュースによって、大震災の破壊力と福島原発の怖さを知りました。日本の人は大変な苦しみと混乱の中において私たち中国人に対して優しく接してくれるかどうか不安でした。それ

でも予定通り日本に行こうと決めました。

日本に来た翌日、早く日本の町の様子を見たいと思って、出かけました。空が青くて、緑が溢れていて、各家の庭に草花が咲いていて、潤いのある町と感じました。道の曲がるところで、背が小さくて、エプロンをかけたお婆ちゃんに出会いました。お婆ちゃんは植木に水をやっていました。お婆ちゃんの側を通ったとき、お婆ちゃんから“おはようございます”と微笑みながら話しかけてくれました。全然知らない人なのに、どうして話をかけたのかと疑問に思いながら、“おはようございます”と返事をしました。中国では知らない人と話さない方がよいと周りの人から教えられましたから、お婆ちゃんからのいきなりの挨拶にびっくりしました。しかし、なにか幸せな気持ちが自然と湧きました。ただの挨拶ですが、日本に来る前に溜まっていた不安感が癒されて、心が休まりました。

その年の7月、先輩の紹介で、ラーメン屋さんでアルバイトをすることになりました。人生初のアルバイトですからしっかりやりたいと思いました。ラーメンの具を用意したり、器具を洗ったり簡単な仕事でした。しかし、こんな簡単な仕事もうまくできませんでした。それは日本語の問題でした。“もやしを買ってきてください”といわれましたが、“もやしってなんですか？”と聞き返しました。このことですぐ首になりました。その後、かえる道の公園で私は泣きました。仕事への熱意だけでは足りない、日本で生活できるようになるためには日本語の力が必要だと分かりました。私は本気で日本語を勉強しようと決心しました。また親から離れて初めて生活が苦しいと感じ、そしてお金は簡単に手に入る物ではないと知りました。今まで支えてくれた両親への感謝の気持ちと大人になるために強い気持ちを持たなければならないと気づきました。

辛いことがあれば、次には良い事があります。

2012年の3月、飲食店でアルバイトをしました。そこで“日本のパパ”と出会いました。このパパは店長で、とても優しい人です。私はよく閉店後、アイスクリームを食べながら、趣味やお互いの体験を話し合う中で貴重なアドバイスをもらいました。また暇な時には一緒に映画を見たり、焼き肉を食べたり、しました。一年間後、私は横浜へ転居することになり、アルバイトをやめました。パパも青森の両親の面倒を見ないと行けないということで、仕事をやめました。青森と横浜の距離は遠いですが、よくお互いにメールで連絡を取ったり、旅行した時にお土産を送ったりしています。二人とも心を開いて相手を受け入れたから、お互いの人生に暖かい記憶が残りました。暖かいひととの出会いで、私は元気に前を向くことができました。

この元気を持って、大学生生活が始まりました。

大学でヒップホップダンスのサークルに加入しました。このサークルはとても厳しく、本格的な部活動でした。年間のスケジュールは忙しいし、ダンスへの要求も高いです。学園祭やダンスリーグ戦の為に、みんなはしっかりダンスの練習をしていました。そこで日本人の真面目さを知りました。これによって考えると日本の企業もきっとそうでしょう！どんな事でも真面目に取り組んでいるからこそ、いい結果を得ていると思います。私はこの真面目さを身につけたいと思いました。

ダンス以外、英語の勉強もチャレンジしました。印度人、韓国人、ベトナム人など沢山の異国の人に触れて、話をして、外の世界が大きく広がり、自分の目でみたいなあと思うようになりました。そして、フィリピンでの英語の研修をしたり、ボランティアとして、国際英語キャンプに参加したり、しました。やりたい事があれば、実行するのは大事と思うようになり、しないと何も得られず、すると何かの成果が得られると信じています。

今は日本にいたので、日本語の方をもっと大事にしないと行けないと思って、布津さんの紹介で、RKKに加入しました。いまは松井先生のご指導の元で、日本語の勉強をしています。生活上のアドバイスや日本文化の紹介など多方面の情報を先生から頂きました。親切で自分のお婆ちゃん見たいに私の面倒を見てくれています。個人指導以外に、社会見学や日本文化の体験会や秋の散策なども参加することができました。自分の視野を広げつつ、充実した生活をしています。RKKのみな様は語学の勉強をしている方、趣味の芸術を続けている方、ボランティアをしているなどの方が多くて、元気で自分がしたいことに打ち込んでいる姿に感動しました。遣り甲斐がある事に挑戦してみれば、自分の人生が広がるという力を頂きました。本当にありがとうございました。

日本での沢山の出会いから、沢山の覚悟を頂き、そして、いまの私になりました。これからも多くの出会いがあると信じて、未来の私に期待しています。  
今日、ご清聴ありがとうございました。

## テーマ「私のお気に入りの日本」

Bakhromova Shakhnoza (Uzbekistan 出身) 東京学芸大学



始めまして。私はシャフノーザと申します。ウズベキスタンの出身です。

どうぞ宜しくお願い致します。

今日、私のお気に入りの日本についてお話したいと思います。

数年前の話ですが、主人が留学することにしまして、どこへ行けばいいか、考えはじめました。彼の専門は経済でアメリカの大学を卒業していたので、そのとき英語で話すどこかの国を目指したんです。私は長い歴史と面白い文化がある日本へ行きたくて、日本に行こうと申し入れました。“二人とも日本語が全然出来ないから無理です”と言った彼は、私の“でも行って見れば、一度行って見れば”で、日本を選んで日本へ留学しました。日本だからとても嬉しかったんですが、生活のことを考えると本当に心配でした。二人とも日本語が全然分からないし、一緒に子供がいるし。

日本に到着した日から毎日驚きばかりで、本当に面白いことを発見していききました。実は全部数えれば一日が足りないほど多いです。空港から出て一番に見て驚いたのは、日本人は電車に乗るとき丁寧に並んで順番に乗ることでした。「はああ、こんなに丁寧に」て、ビックリしました。市役所へ行っても、病院へ行っても同じことで、とてもよいことです。その次は駅から出てきれいな道路を見て、またビックリ。デコボコで、穴が開いている道路を見たことがないんです。歩道も色々な素敵なデザインで描いてあり、いつまでもずっと歩きたい気持ちでした。

家族と生活し始め、最初はとても大変でした。買い物しようとしたら塩か砂糖か字が読めないし、誰かに聞こうとしたら言葉も分からないし、市役所からよくすべて日本語で書いてある紙が届いて来ても市役所は何が欲しいかわからなくて心配でした。どこかが痛くなっても病院へも行けない、回りで何を言っているか、それも分からなくて大変困りました。

そこで、会館でボランティアで日本語を教えている人々や、こちらのRKKの色々な活動についてのポスターを見て、またビックリしました。全然知らない人を助けるため、無料で日本語を教えてくれるということは本当に考えられないことでした。すぐ声をかけ「お願いします」と言ったら、先生が会館まで来てくださり熱心な授業が始まりました。日本語を教える事だけでなく必要があれば、一緒に病院や、市役所、保育園など、どこでもついて行ってくださったり、よく助けたりして、本当に感動しました。

その私が日本にいる間、父が国から日本へ来て、「どこを見てもちょうど掃除したばかりのようで、とてもきれいです。日本人は道を1日に何回掃除しますか」と聞きました。「お父さん、信じられないことですが、一回もしません」と言うと、もちろん、父はビックリしました。その2週間の旅行の中で面白いことがありました。ある日、来たばかりの父が迷子になってしまいました。私は電話して、「お父さん今どこにいるの」と聞いたら、「分かりません」ということで、彼がウズベキ語とロシア語しか分からないので、彼自分が誰にも声をかけられない大変な状態でした。「じゃあ、横を通っている誰かに電話を渡して、私がお聞きします」といいました。電話から一人の女性の声が聞こえました。私もまだ日本語が下手で変な日本語でしたが問題を説明して、「今お父さんがいる場所はどこでしょうか」と聞いたんで

すが、その女性が、「あなたは今どこにいますか」と聞きました。自分がいる場所を教えたら、「へえ、お父さんはちょっと遠いですよ、そこで待っててください」と言って、父と一緒にバスに乗り父を連れてきてくださいました。父は日本人でこんな人だと言って、父の大きくなった目とビックリした顔をいつまでも忘れないと思います。もちろん、世界で優しい人々がいっぱいいると思いますが、日本人の優しさは世界で一番と言った声を聞き、それをとても気に入りました。

もう一つは日本人の子供は虫を見るとそんなに怖がらないことです。あまり殺さないです。虫をペットにして飼っている子供もいるんですね。国の子供たちは虫をとて怖いものと思って大体子供の皆が怖がります。それから虫が嫌いです。何で同じ優しさの子供たちですが、もうこんな違いがあるのか、それは息子が日本の小学校に入学したあと分かりました。息子の学校のテキストを開けて見たら自然、動物たち、虫などについていっぱい書いてあり日本人は教育の最初から子供達に自然と仲良く生活することを教えます。これは素晴らしいことと思います。

しかし、その1年3ヶ月の日本での生活は毎日が楽しくて毎日がいい勉強になりました。国へ帰ってもいつもまた日本へ行きたいなあとと言う気持ちでした。帰国して1年後の話と思いますが、ある日、「じゃあ、私も勉強を続けて留学したいんですが」と主人に相談したら、主人は「あなたも日本へ留学すればどう」と言いました。「え、私も日本にまた行きたいんですが、専門は英語で、英語を日本で勉強するのはどうかな」と言ったら、彼は「大丈夫です」と言いました。彼も私のように日本を超気に入ってたのです。それでそこからまた勉強の準備をし始め試験を受けたり大学を調べたりして、私が東京学芸大学へ勉強しに来ました。私の目的は日本の教育制度をしっかりと勉強して習ったことを国で使うことです。

今日、こんなに優しいお心を持って、小さな虫から動物や植物まで、生きているものから生きてないものまでの、世話をしてくれ、色々な人間たちの気持ちを大切に大変助けてくださる皆さま、私のスピーチを聞いていただき、本当に心から感謝申しあげます。有難うございました。

## 私たちは：

留学生が留学を終了したとき、振り返って、日本に来てよかったと回想してもらえるよう、できる範囲で留学生を支援します。このことにより、親日家が増えることを期待します。

## 私たちのモットーは：

みんなで  
少しずつ会の  
運営に参加しながら  
留学生がハッピーになるよう  
できる範囲で  
楽しくやることです。

## **NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK)**

Ryugakusei to Katariau Kai (RKK)

Relationship and Kindness are the Kings of Peace

Friendship Association for International Students

and Japanese Volunteers